

平成10年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1998

目次

企画展	4
生誕100年記念 井上三綱展	
美しき苦惱——パリ市立近代美術館所蔵 ルオー展	
——アートが表現する植物の生命力——幻想植物園展	
広重風景版画展 東海道五拾三次と木曾街道六拾九次	
常設展示	12
第1回常設展示	
第2回常設展示	
第3回常設展示	
第4回常設展示	
教育普及	19
子どものワークショップ 超★植物あらわる/葉っぱのステンドグラス	
ワークショップ 箱庭園芸——小さな庭物語——/イメージの種を育む/	
立体造形としてのバスケットリー/落ち葉でつくる秋のアルバム	
展覧会解説+ワークショップ 繊細な葉脈——透かし葉——	
レクチャー 植物の色の魅力——江戸時代の染織品を分析する——	
ワークショップクラブ 参加する美術館——展覧会『幻想植物園』のバックステージ/	
美術をみるために何をする？	
応援スタッフ	
陶芸教室 初心者陶芸教室/夏休み子ども陶芸教室/初心者陶芸教室	
オリジナルビデオの制作「井上三綱の世界」	
ワークショップオリジナルブックの制作	
保存・修復	29
平成10年度修復作品	
収蔵庫虫害調査(虫害モニタリング)	
収蔵庫・展示室内空気環境調査	
地震対策	
収蔵作品	31
平成10年度収蔵作品	
統計	36
平成10年度 観覧者数	
平成10年度 施設利用状況	
平成10年度 学校団体観覧利用者数	
平成10年度 市民アートギャラリー利用状況	
平成10年度までの市民アートギャラリー入場者の推移	
沿革	39
組織・運営	40

企画展

生誕100年記念 井上三綱展

会 期 平成10年 4月25日(土)～6月7日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 NHK横浜放送局・神奈川新聞社

本展は、井上三綱の生誕100年を機に、戦前戦後を通じてこの湘南地域の多くの画家達に影響を与えてきた、井上三綱の芸術の全貌を回顧するものである。

井上三綱は、1899年(明治32)福岡県八女郡(現、筑後市)に生まれ、神主の家庭で育ち、筑後の豊かな風土に育まれ、多感な少年時代を過ごす。同郷の青木繁や坂本繁二郎が画家を志して上京したように、井上もまた、横浜に来て画家を志す。はじめは岸田劉生を訪ね指導を仰ぐうち関東大震災に遭遇して郷里に戻る。その後フランスから帰国した同郷の坂本繁二郎を訪ね師事し、親交は坂本が亡くなるまで続けられる。小田原市酒匂に居をかまえ1926年(大正15)第7回帝展に「牛」を出品し、画壇に登場。坂本の影響下から次第に井上の独自の画風確立をめざしてセザンヌ、ピカソなどの研究をし、戦後、油彩画を止め胡粉を多用して胡粉を削り落とした画肌を着彩する胡粉画を展開させる。第4回美術連合団体展に出品した「しゃがみかけた牛」が、来日していたイサム・ノグチの目に止まり賞賛された。それを契機としてアメリカへたびたび紹介される。1950年(昭和35)所属していた国画会を辞め、小田原市入生田の長興山の山間に住み創作に没頭し、ペン・シャーンをはじめ、美術の分野にも造詣の深い原子物理学者ロバート・オッペンハイマー博士など多くの国際的な文化人との親交を結んだ。1971年(昭和46)国際交流基金よりワシントン市の世界銀行画廊で招待個展を依頼され、屏風作品11点を発表した。これらの作品は井上芸術の到達点を示す作品とみなされる。こうした井上三綱の創作活動を、東洋と西洋に立脚し芸術表現を追求した足跡を回顧するものとして、111点の作品により紹介した。



生誕100年記念 井上三綱展

井上三綱は、福岡県八女郡(現、筑後市)に生まれ、神主の家庭で育ち、筑後の豊かな風土に育まれ、多感な少年時代を過ごす。同郷の青木繁や坂本繁二郎が画家を志して上京したように、井上もまた、横浜に来て画家を志す。はじめは岸田劉生を訪ね指導を仰ぐうち関東大震災に遭遇して郷里に戻る。その後フランスから帰国した同郷の坂本繁二郎を訪ね師事し、親交は坂本が亡くなるまで続けられる。小田原市酒匂に居をかまえ1926年(大正15)第7回帝展に「牛」を出品し、画壇に登場。坂本の影響下から次第に井上の独自の画風確立をめざしてセザンヌ、ピカソなどの研究をし、戦後、油彩画を止め胡粉を多用して胡粉を削り落とした画肌を着彩する胡粉画を展開させる。第4回美術連合団体展に出品した「しゃがみかけた牛」が、来日していたイサム・ノグチの目に止まり賞賛された。それを契機としてアメリカへたびたび紹介される。1950年(昭和35)所属していた国画会を辞め、小田原市入生田の長興山の山間に住み創作に没頭し、ペン・シャーンをはじめ、美術の分野にも造詣の深い原子物理学者ロバート・オッペンハイマー博士など多くの国際的な文化人との親交を結んだ。1971年(昭和46)国際交流基金よりワシントン市の世界銀行画廊で招待個展を依頼され、屏風作品11点を発表した。これらの作品は井上芸術の到達点を示す作品とみなされる。こうした井上三綱の創作活動を、東洋と西洋に立脚し芸術表現を追求した足跡を回顧するものとして、111点の作品により紹介した。



井上三綱は、福岡県八女郡(現、筑後市)に生まれ、神主の家庭で育ち、筑後の豊かな風土に育まれ、多感な少年時代を過ごす。同郷の青木繁や坂本繁二郎が画家を志して上京したように、井上もまた、横浜に来て画家を志す。はじめは岸田劉生を訪ね指導を仰ぐうち関東大震災に遭遇して郷里に戻る。その後フランスから帰国した同郷の坂本繁二郎を訪ね師事し、親交は坂本が亡くなるまで続けられる。小田原市酒匂に居をかまえ1926年(大正15)第7回帝展に「牛」を出品し、画壇に登場。坂本の影響下から次第に井上の独自の画風確立をめざしてセザンヌ、ピカソなどの研究をし、戦後、油彩画を止め胡粉を多用して胡粉を削り落とした画肌を着彩する胡粉画を展開させる。第4回美術連合団体展に出品した「しゃがみかけた牛」が、来日していたイサム・ノグチの目に止まり賞賛された。それを契機としてアメリカへたびたび紹介される。1950年(昭和35)所属していた国画会を辞め、小田原市入生田の長興山の山間に住み創作に没頭し、ペン・シャーンをはじめ、美術の分野にも造詣の深い原子物理学者ロバート・オッペンハイマー博士など多くの国際的な文化人との親交を結んだ。1971年(昭和46)国際交流基金よりワシントン市の世界銀行画廊で招待個展を依頼され、屏風作品11点を発表した。これらの作品は井上芸術の到達点を示す作品とみなされる。こうした井上三綱の創作活動を、東洋と西洋に立脚し芸術表現を追求した足跡を回顧するものとして、111点の作品により紹介した。

展覧会図録

大きさ 29.0cm×22.6cm

頁 数 96頁

論 文 福田徳樹「井上三綱覚書」

森田英之「井上三綱の絵画」

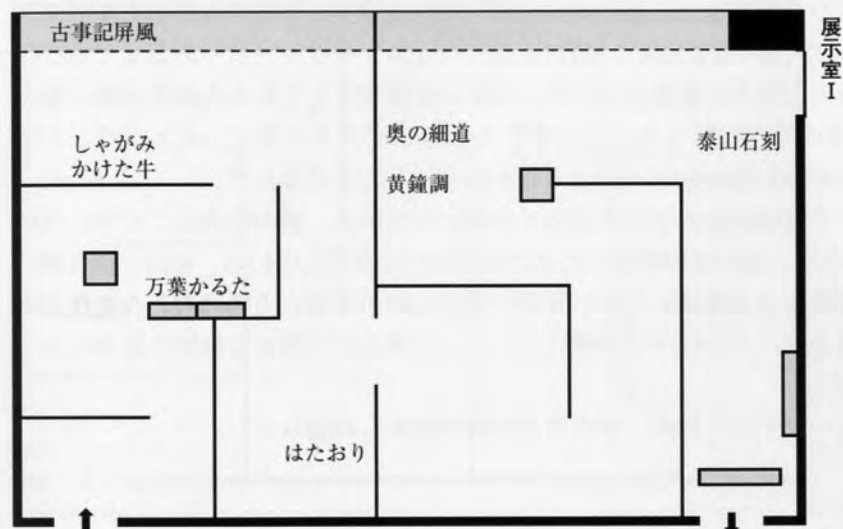
石井佐一「三綱先生と西湘」

資 料 坂本繁二郎「井上三綱宛書簡」

井上三綱 「モルモットの足跡」



展覧会場



関連事業

ミュージアムコンサート「雅楽の夕べ」

日 時：5月23日(土) 18:30～20:00

演 奏：豊剛秋(笙) 大窪永夫(箏) 上明彦(笛)

三氏とも宮内庁式部職楽部

曲 目：黄鐘調音取(オウシキチヨウネトリ)、海青楽(カイセイラク)、

西王楽(サイオウラク)、越殿楽(エテンラク)

参加者：約220人



美しき苦悩——パリ市立近代美術館所蔵 ルオー展

会 期 平成10年7月18日(土)～8月23日(日)
主 催 平塚市美術館・読売新聞社
後 援 フランス大使館

協 力 エールフランス国営航空会社
企画協力 プレーントラスト株式会社

本展は、ルオーの初期作品が数多く収蔵されているパリ市立近代美術館から、20世紀最大の宗教画家ともいえる、ジョルジュ・ルオーの油彩、水彩、版画など約100点を公開するものである。また出光美術館の協力で、油彩の秀作3点も特別に展示することができた。

パリ・コミューンの動乱のさなかの1871年、ルオーは家具職人の息子としてパリに生まれた。ステンドグラスの職人に弟子入りした14歳頃から、はやくも芸術的才能を発揮しはじめ、装飾芸術学校の夜間部に通いながら画家を志す。19歳でエコール・デ・ボザール(国立美術学校)に入学、ギュスターブ・モローの教室で学び、アカデミズムにとらわれないモローの教育に大きな影響を受けた。ルオーが画家として生きた時代には、彼の住んだパリが拠点となって、フォービズム(野獣派)、キュビズム、シュルレアリスムなど、次々に新しい美術が展開したが、ルオーはこれらの動きから距離をおき、独自の道を生涯にわたって歩んだ。

ルオーの芸術は、彼が敬虔なカトリック教徒であることと密接にかかわっている。彼の信仰心こそが、その芸術の尽きることない豊かなみなもととなり、深い精神性をたたえた画面をつくりだしている。娼婦、道化師、裁判官など、一見宗教と縁遠い世俗に生きる人々を描いた早い時期の作品においても、人間の悲しみや苦悩を直視し、1910年代後半から油彩で描かれるキリスト像や、聖書に材をとった作品には聖なる静寂と歓喜にみちている。

なお、本展は小田急美術館、大丸ミュージアム・梅田、徳山市美術博物館でも開催された。



展覧会図録

大きさ 26.0cm×18.9cm

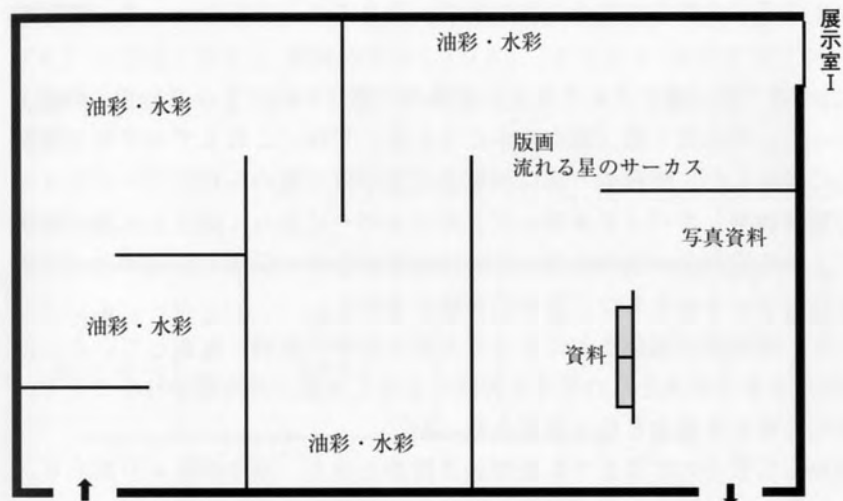
頁 数 132頁

論 文 ダニエル・モリナリ「怒りから静けさへ」

資 料 「ジョルジュ・ルオー年譜」



展覧会場



関連事業

記念コンサート

日 時：7月25日(土) 18:30～20:00

会 場：テーマホール

プロデュース：瀧井敬子

演 奏：アンサンブル“杜”（東京芸術大学学生有志）

曲 目：C.F.ヘンデル 合奏協奏曲第六番ト短調 ほか

参加者：約220人



— アートが表現する植物の生命力 — 幻想植物園展

会 期 平成10年10月17日(土)～12月13日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 神奈川新聞社・NHK横浜放送局

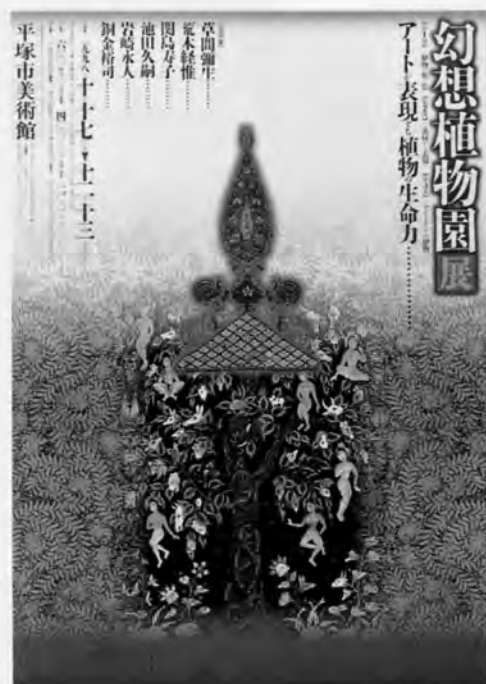
協 力 神奈川中央交通株式会社・株式会社大田花き・高砂香料工業株式会社・東通産業株式会社・
シュリロトレーディングカンパニーリミテッド・湘南造園株式会社・株式会社木村植物園

本展は「植物と人間」の関わりについて現代アートを通して考える展覧会である。三部構成の展覧会のメインとなる第3部「アートになった植物」は、植物を素材とした、あるいは対象としている現代アーティストの作品である。そこには「美しい」「優しい」「ナチュラル」といったいわゆる一般的な植物イメージを越え、強靱な繁殖力や、生死の連鎖を繰り返す生命力、人間と拮抗する底知れない強さをもったものとして、植物を捉えた表現を見ることができる。

本展ではこのような現代アートと向き合うまでに「葉」という身近な植物の一部分からスタートして、染織、工芸品を経ていくという導入部分をつくった。その第1部「植物のかたちと色」では、これまでの平塚市美術館の教育普及活動で制作した資料を中心に展示した。資料の一部は展覧会に先がけて始められたワークショップクラブ「参加する美術館－展覧会『幻想植物園』のバックステージ」のメンバーによって制作された。第2部「素材から表現へ」は藍、紅花などによる染織品と、日本近代の工芸作品を中心に、伝承や技術によって素材の性質を最大限に引き出され、洗練されたフォルムをもつ工芸作品が展示された。

現代社会は、森林の伐採、オゾンホール、酸性雨の現象などによって人間の生存の危機に直面している。こうした現代の状況を背景に、展覧会に参加する多くの人たちの視点と方法によって本展が読み解かれることで、植物とアートと私たちの関係について改めて考える機会となる展覧会だった。

本展のもうひとつの特徴は、準備段階から展覧会の実現までも教育普及活動と捉え、多くの人々が関わり、そのプロセスを体験してきたことである。また、展覧会の関連プログラムとして、会期中にもさまざまなワークショップ(教育普及の頁：P19～P26参照)を開催した。



展覧会図録

大きさ 25.8cm×18.3cm
 頁数 72頁
 論文 浜口哲一「人と植物の五千年」
 端山聡子「一枚の葉っぱから現代アートまで」
 小池光理「夢見る装置としての植物園」
 諸山正則「工芸作品解説」(録音テープを起こしたもの)

作家略歴+インタビュー

草間彌生／荒木経惟／関島寿子／池田久嗣／岩崎永人／銅金裕司

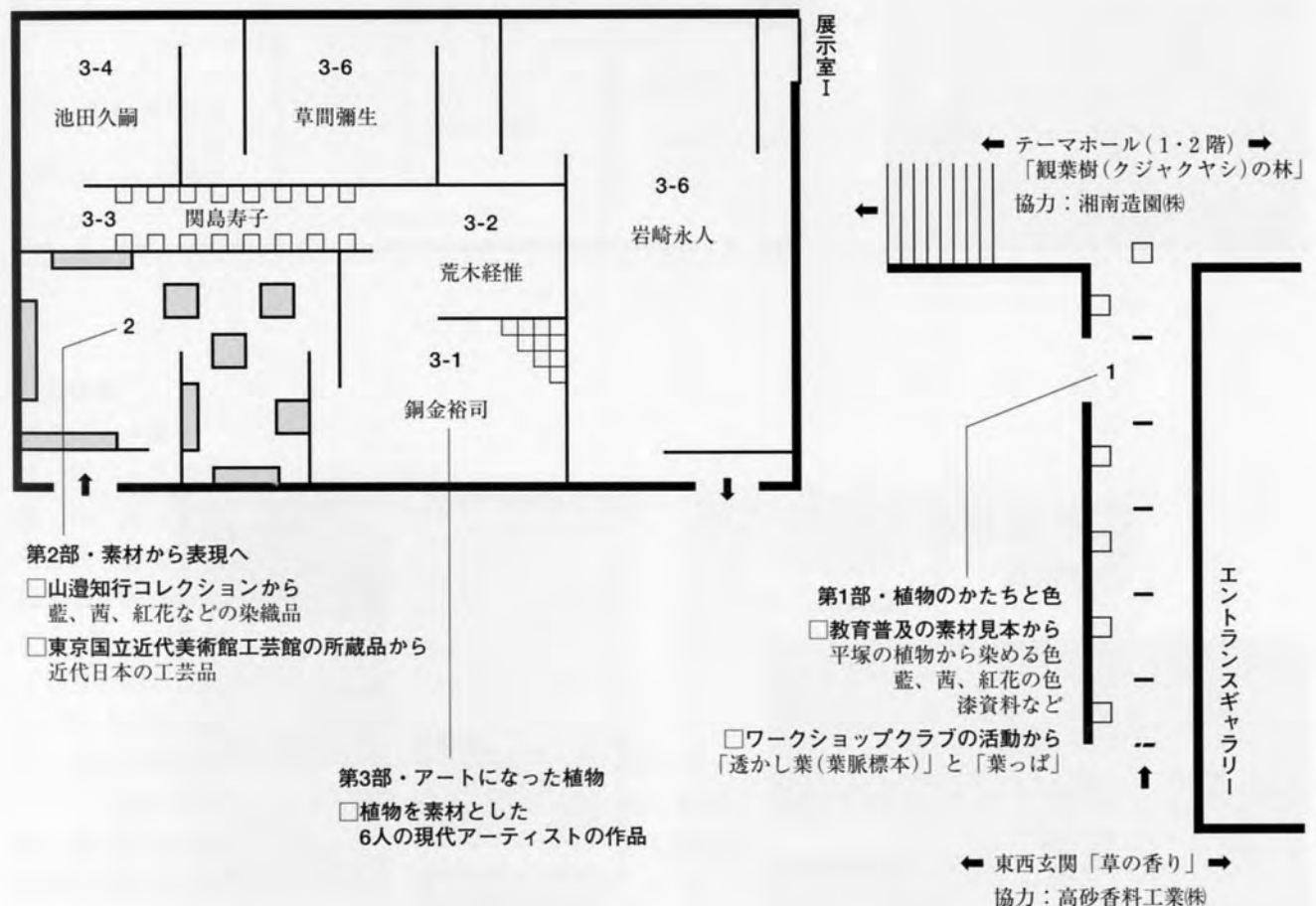
表紙デザイン 杉浦康平+佐藤篤司+坂野公一



印刷物

ポスター(B全・B3)、展覧会ちらし(A4)、チケット(以上デザイン:杉浦康平+佐藤篤司+坂野公一)、
 教育普及活動ちらし(A4二つ折り)、ニューズレターVol.1〜7(A4二つ折り)、ギャラリーガイド(A3二つ
 折り)

展覧会場



関連事業

教育普及活動の頁(P19〜P26)を参照

広重風景版画展 — 東海道五拾三次と木曾街道六拾九次 —

会 期 平成11年1月15日(金)～2月14日(日)

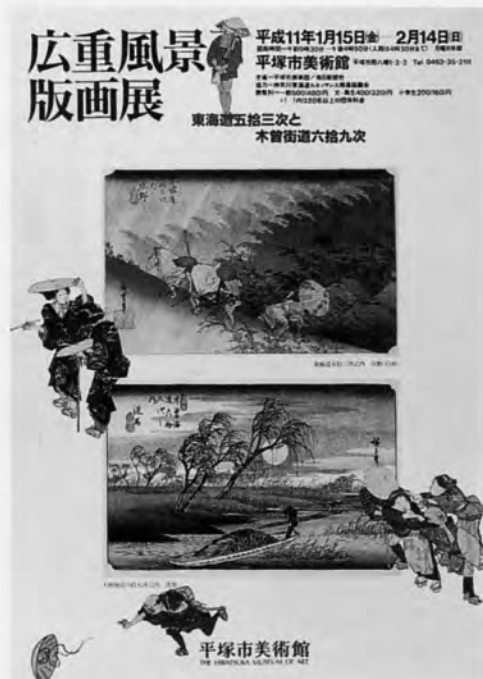
主 催 平塚市美術館・毎日新聞社

協力 神奈川東海道ルネッサンス推進協議会

葛飾北斎とともに浮世絵風景版画の完成者として高く評価される歌川広重の二つの街道シリーズ、出世作となった保永堂版《東海道五拾三次》とその円熟期に溪斎英泉と合作した《木曾街道六拾九次》の全作品126点（「中津川」の変わり絵を含む）を展示した。また、「写真にみる東海道」として広重の各作品に対応する大正7年と平成6年時点の写真110点と、「写真にみる木曾街道」として写真家安田就視氏撮影による現在の木曾街道の写真15点を展示し、風景の変遷を比較できるようにした。

そのほか《木曾街道續ノ壹 日本橋雪之曙》の異版3種、三代豊國作《広重肖像画(死絵)》、歌川広重『岐蘇名所図会』、秋里籬鳥著・西邨中和画『木曾路名所圖會』、淵上旭江『山水奇観』、貝原益軒『岐蘇路之記』、谷文晁『日本名山圖會』、葛飾北斎《木曾路一覽》、《庄野》の復刻による順序摺りなどを参考展示した。

図録では、広重風景版画の特質である、時間や天候や気候、気象などをともなう具体的で現実感のある風景描写と表情豊かな人物描写、そしてそれらから生じる情趣と旅情に焦点をあて、各作品ごとに、場面、人物、季節、時刻、気象等、作品の鑑賞にあたり参考となる事項を「作品参照事項」として記載した。



展覧会図録

大きさ 30.3cm×18.3cm

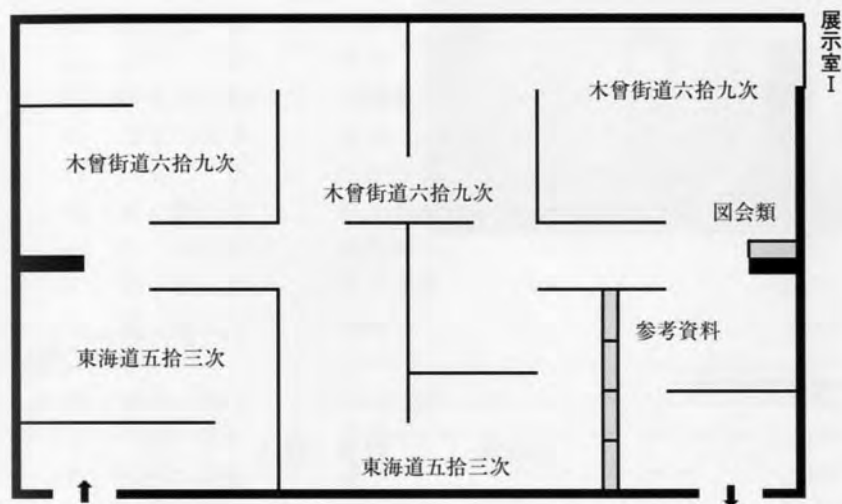
頁 数 88頁

論 文 福田徳樹「広重の風景版画を見て、今何を思い何を感じるか—
《東海道五拾三次》と《木曾街道六拾九次》」

岡部幹彦「旅への憧憬と広重風景版画」

資 料 「錦絵の摺順」「《木曾街道續ノ壺 日本橋雪之曙》にみる異版」
「写真にみる東海道」「写真にみる木曾街道」

展覧会場



関連事業

ガイドンス講座

日 時：1月23日(土) 13:30～15:00

講 師：福田徳樹(当館館長)、岡部幹彦(当館学芸員)

会 場：講堂

参加者：約100人

「広重わらじ旅 平塚～大磯」

日 時：1月17日(日) 9:30～14:00

行 程：美術館(展覧会観覧)→平塚八幡宮→西組問屋場跡→
花水橋→化粧坂・一里塚跡→鳴立庵→大磯城山公園

講 師：土井浩(平塚市博物館)、佐川和裕(大磯町郷土資料館)

参加者：約50人

協 力：神奈川東海道ルネッサンス推進協議会、旅人倶楽部



ビデオ上映「広重保永堂版 東海道五拾三次」

日 時：1月15日～2月14日

会 場：講堂

常設展示

今年度の常設展示は、所蔵品から湘南ゆかりの作家の作品を紹介し、展示替えを4回おこなった。うち第3回展については企画展「幻想植物園」展の準備スペース拡張にともない、展示室の3分の2のスペースをあてた。

第1回展では企画展「井上三綱」展開催にあわせ、「相州美術家協会の作家」として原精一、二見利節、本莊起、山下大五郎の4人の画家を特集したほか、神奈川県立神奈川近代文学館企画展「広津柳浪・和郎・桃子——広津家三代の文学——」展、神奈川県立歴史博物館特集展示「柳浪・和郎・桃子の収集した工芸品」と連携して当館所蔵の広津コレクションのうち17点の特別公開を行った。

第2回展では当館所蔵の安藤コレクション20点を初めて一括して紹介した。

第4回展では平成9年度、平成10年度に新たに当館に収蔵、あるいは寄託された作品から、19点を公開した。



*は寄託作品

第1回常設展示 1998年4月15日(水)～6月21日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■洋画				
1	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
2	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
3	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
4	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンバス
5	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
6	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
7	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス
8	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
9	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・キャンバス
10	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンバス
11	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス
12	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
13	鳥海 青児	川沿いの家	1954	油彩・キャンバス
14	鳥海 青児	サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
15	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
16	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
17	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
18	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンバス
19	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
20	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
21	中村 琢二	永浜氏像	1949	油彩・キャンバス
22	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
23	原 精一	静物	1923頃	油彩・キャンバス
24	原 精一	少女	不詳	油彩・キャンバス

25	原 精一	男(座像)	1940	油彩・キャンバス
26	原 精一	三人の女	1951	油彩・キャンバス
27	二見 利節	男鹿の景	1941	油彩・キャンバス
28	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
29	二見 利節	集ひ	1940	油彩・キャンバス
30~33	二見 利節	パステル小品(全4作品)	不詳	パステル・ルーフィング
34	二見 利節	羅上	1971	水彩・オイルパステル・紙
35	二見 利節	裸婦のいる風景	1975	油彩・キャンバス
36	本荘 赳	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
37	本荘 赳	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
38	本荘 赳	建てる	1982	油彩・キャンバス
39	本荘 赳	丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
40	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
41	森田 勝	風景	1929頃	油彩・キャンバス
42	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
43	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
44	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を臨む	1936	油彩・キャンバス
45	萬 鉄五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
46	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
47	萬 鉄五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
48	萬 鉄五郎	静物	1926	油彩・キャンバス
■日本画				
*49	麻田 鷹司	雪後山水	1970	紙本着色
50	今村 紫紅	老松	1911	紙本着色
51	今村 紫紅	瀧	1915	紙本着色
52	鎗木 清方	洛外の春	明治中期	絹本着色
53	近藤 弘明	寂照苑	1982	紙本着色
54	鈴木 至夫	春	不詳	紙本着色
55	広田 多津	流れ	1972	紙本着色
56	安田 靱彦	相撲の節	1907頃	絹本着色
57	安田 靱彦	稚児文殊	1912頃	絹本着色
58	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着色
*59	安田 靱彦	菅公幼少図	1939頃	絹本着色
60	山本 丘人	春近し	1952	絹本着色
■広津コレクションの特別公開				
61	上野山清貢	牛	1928	油彩・板
62	歌川 国貞	澤村田之助尾上松助	江戸時代後期	木版・紙
63	恩地孝四郎	コンポジション	1953	リトグラフ・紙
64	恩地孝四郎	ポエムNo.21	1953	混合技法・紙
65	須田 克太	文楽おそめ	1967	パステル・水彩・紙
66	須田 克太	冬瓜	1967	パステル・水彩・紙
67	須田 克太	祝猿	1968	パステル・水彩・紙
68	高畠達四郎	樹木・箱根連山	不詳	油彩・キャンバス
69	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
70	鍋井 克之	勝浦温泉	不詳	油彩・キャンバス
71	林 俊衛	白い橋と緑樹	不詳	油彩・キャンバス
72	平福 百穂	酸漿草	1919	紙本墨画淡彩
73	別府貫一郎	霧のベネツィア	1955	油彩・キャンバス
74	牧野 虎雄	庭小径	1936	油彩・板

75	松山 文雄	肥料会社	不詳	油彩・板
76	安井曾太郎	東京駅前の朝	不詳	鉛筆淡彩・紙
77	萬 鉄五郎	鶴沼風景	1924	油彩・キャンパス

第2回常設展示 1998年6月25日(水)～9月20日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■湘南ゆかりの作家				
1	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンパス
2	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンパス
3	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンパス
4	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンパス
5	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンパス
6	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンパス
7	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンパス
8	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンパス
9	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンパス
10	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンパス
11	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンパス
12	鳥海 青児	川沿いの家	1954	油彩・キャンパス
13	鳥海 青児	サーカスの馬	1954	油彩・キャンパス
14	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンパス
15	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンパス
16	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンパス
17	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンパス
18	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンパス
19	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンパス
20	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンパス
21	中村 琢二	永浜氏像	1949	油彩・キャンパス
22	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンパス
23	森田 勝	風景	1929頃	油彩・キャンパス
24	山本 鼎	国府津海浜より箱根連山を望む	1936	油彩・キャンパス
25	萬 鉄五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンパス
26	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンパス
27	萬 鉄五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンパス
28	萬 鉄五郎	静物	1926	油彩・キャンパス
■相州美術家協会の作家コーナー				
29	原 精一	静物	1923頃	油彩・キャンパス
30	原 精一	少女	不詳	油彩・キャンパス
31	原 精一	三人の女	1951	油彩・キャンパス
32	原 精一	男(座像)	1940	油彩・キャンパス
33	二見 利節	男鹿の景	1941	油彩・キャンパス
34	二見 利節	集い	1940	油彩・キャンパス
35	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンパス
36-39	二見 利節	パステル小品(全4点)	不詳	パステル・ルーフィング
40	二見 利節	羅上	1971	水彩・パステル・紙
41	二見 利節	裸婦のいる風景(絶筆)	1975	油彩・キャンパス
42	本荘 越	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンパス
43	本荘 越	建てる	1982	油彩・キャンパス

44	本莊 赳	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
45	本莊 赳	丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
46	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
47	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
■安藤好明コレクションの特別公開				
48	有島 武郎	書簡	1920	紙本墨書
49	鎬木 清方	洛外之春	明治中期	絹本着色
50	川端 玉章	佐野常世	不詳	紙本着色
51	後藤 純男	紅葉樹林	不詳	紙本着色
52	榊原 文翠	鷹野之図	明治初期	絹本着色
53	坂巻 耕漁	能面	不詳	紙本着色
54	高田 力蔵	朝霧のシテ	1966	油彩・キャンバス
55	高田 力蔵	朝霧のノートルダム	1967	油彩・キャンバス
56	高田 力蔵	スペイン階段	1972	油彩・キャンバス
57	田中 真洲	陶淵明四時草書	1984	紙本墨書
58	長野 草風	葭に鶴鴿	不詳	絹本着色
59	中村 貞以	蛭	不詳	絹本着色
60	野口 小蘋	山水図	不詳	絹本墨画淡彩
61	二見 利節	柿	1974	油彩・キャンバス
62	本莊 赳	砂丘晩秋	1969	油彩・キャンバス
63	本莊 赳	淡雪	1968	油彩・キャンバス
64	武者小路実篤	天味無限	不詳	紙本着色
65	渡辺 省亭	常盤	1895	絹本着色
66	渡辺 了之	扁鵲画像	江戸初期	紙本墨画淡彩
67	不 詳	美人立姿	江戸末期	絹本着色
■写真				
68	濱谷 浩	学芸諸家 藤田 嗣治	1938	東京都
69	濱谷 浩	学芸諸家 鈴木 大拙	1944	神奈川県(鎌倉)
70	濱谷 浩	学芸諸家 上村 松園	1944	京都府
71	濱谷 浩	学芸諸家 河井寛次郎	1944	京都府
72	濱谷 浩	学芸諸家 堀口 大學	1946	新潟県(妙高山麓)
73	濱谷 浩	学芸諸家 三好 達治	1948	福井県(三国町)
74	濱谷 浩	学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県(太田村)
75	濱谷 浩	学芸諸家 小林 古径	1949	東京都
76	濱谷 浩	学芸諸家 安井曾太郎	1949	神奈川県(湯河原)
77	濱谷 浩	学芸諸家 會津 八一	1950	新潟県
78	濱谷 浩	学芸諸家 棟方 志功	1951	新潟県(大潟)
79	濱谷 浩	学芸諸家 木村 莊八	1952	東京都
80	濱谷 浩	学芸諸家 矢代 幸雄	1952	神奈川県(大磯)
81	濱谷 浩	学芸諸家 三岸 節子	1952	東京都
82	濱谷 浩	学芸諸家 高橋誠一郎	1952	神奈川県(大磯)
83	濱谷 浩	学芸諸家 前田 青邨	1953	神奈川県(鎌倉)
84	濱谷 浩	学芸諸家 小林 秀雄	1955	神奈川県(鎌倉)
85	濱谷 浩	学芸諸家 獅子 文六	1955	神奈川県(大磯)
86	濱谷 浩	学芸諸家 川端 康成	1956	神奈川県(鎌倉)
87	濱谷 浩	学芸諸家 安田 靱彦	1970	神奈川県(大磯)
88	濱谷 浩	学芸諸家 開高 健	1982	神奈川県(茅ヶ崎)

第3回常設展示 1998年9月22日(火)～1999年2月21日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■湘南ゆかりの作家				
1	朝井閑右衛門	廃園に於いて	1926	油彩・キャンバス
2	井上 三綱	水辺の馬	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
3	井上 三綱	乳牛三頭	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
4	今村 紫紅	入る日・出る月(小下絵)	1915	紙本着色(二面)
5	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
6	岸田 劉生	石垣ある道(鵠沼風景)	1921	油彩・キャンバス
7	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
8	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
9	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
10	国領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス
11	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
12	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
13	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
15	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
16	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
17	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス
18	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
19	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
20	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
21	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
22	二見 利節	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
23	本荘 越	廃屋(一)	1987	油彩・キャンバス
24	本荘 越	蓮池早暁	1988	油彩・キャンバス
25	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
26	森田 勝	街	1933頃	油彩・ボード
27	安井曾太郎	東京駅前の朝	不詳	鉛筆淡彩・紙
28	萬 鉄五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
29	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
30	萬 鉄五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
31	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
■鳥海青児の世界				
32	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
33	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	グーベルスマン広場	1932	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・キャンバスボード
37	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス

45	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
46	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
47	鳥海 青児	シベリヤの駅	1930	鉛筆・オイルパステル・水彩・紙
48	鳥海 青児	シベリヤ線キローク駅	1930	鉛筆・コンテ・水彩・紙
49	鳥海 青児	ベルリンの公園	1930	鉛筆・水彩・紙
50	鳥海 青児	ベルリンにて	1930	鉛筆・紙
51	鳥海 青児	アルゼリーの女	1930-31	鉛筆・紙
52	鳥海 青児	アルゼリーの広場にて(モスケ)	1931	鉛筆・水彩・紙
53	鳥海 青児	ピカドール(1)	1931	鉛筆・紙
54	鳥海 青児	ベニス	1933頃	鉛筆・オイルパステル・水彩・紙

第4回常設展示 1999年2月25日(木)～4月4日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	朝井閑右衛門	廃園に於いて	1926	油彩・キャンバス
2	井上 三綱	水辺の馬	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
3	井上 三綱	乳牛三頭	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
4	今村 紫紅	入る日・出る月(小下絵)	1915	紙本着色(二面)
5	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
6	岸田 劉生	石垣ある道(鵠沼風景)	1921	油彩・キャンバス
7	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
8	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
9	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
10	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
11	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
12	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
13	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
15	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
16	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス
17	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
18	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
19	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
20	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
21	二見 利節	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
22	本荘 赳	廃屋(一)	1987	油彩・キャンバス
23	本荘 赳	蓮池早暁	1988	油彩・キャンバス
24	本荘 赳	建てる	1982	油彩・キャンバス
25	本荘 赳	朝	1986	油彩・キャンバス
26	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
27	森田 勝	街	1933頃	油彩・ボード
28	安井曾太郎	東京駅前の朝	不詳	鉛筆淡彩・紙
29	萬 鉄五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
30	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
31	萬 鉄五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
32	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
■鳥海青児の世界				
33	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
34	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス

35	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・キャンバスボード
38	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
45	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
46	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
47	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
48	鳥海 青児	シベリヤの駅	1930	鉛筆・オイルパステル・水彩・紙
49	鳥海 青児	シベリヤ線キローク駅	1930	鉛筆・コンテ・水彩・紙
50	鳥海 青児	ベルリンの公園	1930	鉛筆・水彩・紙
51	鳥海 青児	ベルリンにて	1930	鉛筆・紙
52	鳥海 青児	アルゼリー女	1930-31	鉛筆・紙
53	鳥海 青児	アルゼリーの広場にて(モスケ)	1931	鉛筆・水彩・紙
54	鳥海 青児	ピカドール(1)	1931	鉛筆・紙
55	鳥海 青児	ベニス	1933頃	鉛筆・オイルパステル・水彩・紙
■新収蔵・寄託作品				
56	小谷津雅美	S嬢	1982	紙本着色・一面
57	近藤 弘明	寂照夜	1992	紙本着色・一面
58	菅野 陽	廃墟の幽霊	1955	アクアチント・紙
59	菅野 陽	すてられた子	1955	アクアチント・紙
60	菅野 陽	れつ(A)	1956	ディープエッチ・サルファチント・アクアチント・紙
62	菅野 陽	れつ(B)	1956	ディープエッチ・サルファチント・アクアチント・紙
64	竹中恵美子	テーブルとレモン	1953	油彩・キャンバス
65	竹中恵美子	あざみ	1955	油彩・キャンバス
66	鳥海 青児	アルゼリー港	1936頃	マジックインク・墨・紙
67	鳥海 青児	アルゼリー港	1936頃	パステル・紙
68	鳥海 青児	風景	1948頃	水彩・インク・紙
69	鳥海 青児	風景	1948頃	水彩・インク・紙
70	中村 光哉	過ぎし日(2)	1996	染色・二曲一隻
71	二見 利節	無題	1961	油彩(混合技法)・ボード
72	二見 利節	街	1960年代	油彩(混合技法)・ボード
*73	三宅 克己	郊外 戸山原	1911-19頃	水彩・紙
74	宮崎 進	海	1979	油彩・キャンバス
75	保田 春彦	デッサンA	1990年代	鉛筆・インク・フェルトペン・紙
76	保田 春彦	デッサンB	1990年代	鉛筆・インク・フェルトペン・紙

教育普及

「ー アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

1 子どものワークショップ「超★植物あらわる」

リーダー 青木由香・北川純・永井悦子・森栄二
日時 11月14日(土) 15日(日) の2日間 10:30~16:00
対象/人数 小学生/17名
会場 アトリエA、階段、エントランスホール

植物採取に出かけ、虫の目になったつもりで植物の世界を探求し、よく見て観察したものからイメージを広げて、生命力あふれる植物を制作するという趣旨のもと、開催したワークショップである。これまでの子どものワークショップを経験したスタッフたちと、企画から練り上げて実施した。

子ども達の4~5名のグループを4チームづくり、チーム毎にひとりずつリーダーがついた。リーダーたちが本ワークショップに合う内容に編集したビデオを鑑賞し、浜口哲一さん(平塚市博物館)が撮影したツタの絡まる家や見上げた木などの興味深い植物の表情を捉えたスライドを上映した。こうした鑑賞を導入にグループ毎に分かれて植物採取に出かけた。いろいろな植物の葉や枝などを丁寧に採取し、アトリエに持って帰り、顕微鏡や拡大鏡で拡大してみ、スケッチした。その他葉のフロッタージュや見たものを描くなど、採取した植物からできるだけ多くの事を見つけ出し、それを発見ノートというカラフルなボードに構成して発表した。

制作では、できるだけ多くの種類のテープを用意し、表現の技術やアイデアを伝達し、練習してからスタートした。超★植物の種をアトリエ中央に置き、そこから部屋中に植物が伸びていく。アトリエの床が埋め尽くされたら、階段を降りてエントランスホールまで広がっていき、そこで大きな葉を制作した。最後に「植物が枯れる」という考え方で、成長しきった超★植物を撤収した。

11月14日

午前 「超★植物」とは何か(説明)
「立体あみだくじ」によるグループ分け
ビデオとスライドを鑑賞
植物の採取
午後 採取した植物を観察して、発見ノートを作成し発表
テープ貼りの練習

11月15日

午前 グループ毎に「幻想植物園」展を鑑賞
リーダーによるデモンストレーション
超★植物の制作開始
午後 制作続き
枯れていく超★植物(15:00頃~)
全体のまとめ
・イラストによる記録を制作



「ーアートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

2 子どものワークショップ「葉っぱのステンドグラス」

リーダー 青木由香・北川純・永井悦子・森栄二

日時 11月29日(日) 10:30~16:00

対象/人数 小学生/25名

会場 アトリエA、ライトコート

いろいろな種類の植物の葉や枝を集めて模様をつくり、それをガラス窓に貼ると、葉っぱが光に透けてステンドグラスのようだという、植物の色やかたち注目した造形のワークショップ。これも「超★植物あらかわ」と同様に子どものワークショップの経験のあるスタッフたちと、企画から練り上げて実施したものである。

はじめにビニール製の葉に色紙テープをつけた「くじ」により子ども達5~6名のグループを4チームつくり、チーム毎にリーダーがついて活動した。鑑賞としてアンディ・ゴールズワージーの作品スライドを上映した後に植物採取に出かけた。主に落ち葉を集めることとし、取るときの注意などを話した。ビニール袋に取ってきた葉は、イチョウ、アカメモチ、モミジなどである。

実際に制作するガラス窓の大きさの紙をアトリエ床に敷いて、A3画用紙でアイデアスケッチをおこない、採取した葉でどのような模様をつくるか下描きをした。ストライプや水玉、チェックなど着ている服の文様などの繰り返しのパターンについても注目を促した。

美術館内のライトコートに移動し、のり(デザインボンド)で葉をガラス窓に貼っていった。糊の薄め加減と扱いは少々難しかったようだ。これは展覧会が終わるまでの約2週間、簡単な説明をつけて公開した。

11月29日

午前 ワークショップの内容説明

くじによるグループ分け

スライドを上映

落ち葉の採取

午後 紙にエスキース

ガラス窓に葉を貼る

・イラストによる記録を制作



「ーアートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

ガーデンシアター

3 ワークショップ「箱庭園芸ー小さな庭物語ー」

講師 銅金裕司(園芸作家/展覧会出品作家)

日時 10月24日(土) 31日(土) 11月1日(日) の全3日間 10:30~16:30

対象/人数 高校生以上/21名

会場 アトリエB、屋外創作広場、ライトコート前(記録ビデオの上映)

花や草を植えた箱庭は、制作者のストーリーを表現したり、植物を通して物語が生まれる箱庭である。このワークショップは講師がこれまで実践してきた「箱庭園芸」のダイジェスト版といえるものである。

講義では、ニホンミツバチとキンリョウヘン(蘭の一種)の関係や、これまでシルバーカレッジなどで実施されてきた「箱庭園芸」の様子などがビデオで上映された。また、伊藤若冲の作品と五百羅漢像(京都・石峰寺)のスライドが上映された。講師によればこの庭に配された石仏は「ガーデンシアター」として読みとることもできるという。

箱庭の制作では、物語を文字やスケッチなどイメージをつくってから、用意したコンテナに土を入れて持参した植物を植え、小物を置いていった。参加者それぞれが過去の思い出や、物語のある情景を箱庭内に作り出した。最終日には発表として、自作の箱庭を前にそれにまつわる物語を発表した。

本ワークショップではデジタルビデオによる記録を作成した。制作過程を「箱庭園芸メイキング」とし、最終日の参加者による発表を「箱庭物語」として編集し2本の番組にした。11月中旬頃より2台のモニターをライトコート前に設置し、この2本のビデオを上映し、展覧会来館者に「箱庭園芸」の映像記録を公開した。

10月24日

午前 レクチャー

午後 制作する物語を言葉や絵で表現

10月31日

午前 箱庭の制作

午後 箱庭の制作

11月1日

午前 箱庭の制作

午後 箱庭と物語をひとりずつ発表、ビデオで録画

・イラストによる記録を作成

「ーアートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

4 展覧会解説＋ワークショップ「繊細な葉脈ー透かし葉ー」

リーダー ワークショップクラブメンバーと当館学芸員

日時 11月3日(火)／8日(日)／12月1日(火)の3回、毎回13:00～16:30

対象 中学生以上

人数 11月3日 16名／11月8日 25名／12月1日 30名

「幻想植物園」展の展覧会の解説を聞いてから、透かし葉(葉脈標本)をつくった。展覧会の第1部は展示全体の導入部分であり、平塚市美術館でおこなわれてきた教育普及活動の成果の発表の場であった。ここはワークショップクラブメンバーが展示資料を製作し、展示をおこなったセクションである。中でも透かし葉の展示は、身近な葉や葉脈のかたちの造形としての美しさに着目したもので、アクリルパネルに挟んだ透かし葉5点をつくるために、1千枚以上の透かし葉を製作したことから、このワークショップが計画された。したがって、透かし葉製作の指導はワークショップクラブメンバーによっておこなわれた。

このワークショップの内容は、はじめに展覧会の解説を担当学芸員がおこない、展覧会を鑑賞してから、透かし葉製作を体験するというものである。一般を対象としておこなわれた透かし葉のワークショップは3回だが、この他にも市内外の学校などからの申し込みがあり、養護学校の小学生、中学生、高校生と教諭を対象としたものをおこなった。イラストによるテキストを事前に作成し、ワークショップ参加者に配布した。

このワークショップは3回とも同じ内容を実施した。

・展覧会解説 13:00～

展覧会第1部を中心に担当学芸員が解説した。

・透かし葉の製作 14:30～

ワークショップクラブメンバー

8～10名が指導にあたった。



「アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

5 ワークショップ「イメージの種を育む」

講師 加茂 博(造形作家)
日時 11月7日(土) 21日(土) 28日(土) の全3日間 10:30~16:30
対象/人数 高校生以上/21名
会場 アトリエB

イメージしたものをどのように具体化し制作するかを練習するワークショップとして計画されたもので、テーマとして「植物の種」を取り上げた。

まず、子どものワークショップで使った植物のビデオや講師の製作した「種の標本箱」を見せてレクチャーし、興味深い植物の形態や生態を紹介した。また、講師が持参したさまざまな表現のための材料についてレクチャーし、表現の可能性を示した。

参加者は制作する空想の植物がどんな環境に生息しているのか、どんな一生を送るのかなどをスケッチで表し、講師に説明してどのような材料を使うか、あるいは表現したいものに適した技術などを講師と話しあった。講師はできるだけひとりひとりと話しあい、きめ細かい指導をおこなった。こうした過程を経て、空想の植物の種を制作した。形をつくるのに使用した材料は主に石粉粘土だが、それに加えて綿、針金、ワイヤー、糸、和紙、木、マカロニなどさまざまな材料が使われ、さまざまな環境に生息する種がつくられた。最後にひとりずつ発表をおこなった。

11月7日

午前 レクチャーと材料や制作方法の説明

種の標本箱の観察、ビデオ上映

午後 制作する植物のスケッチ

11月21日

午前 石粉粘土による制作

午後 制作

11月28日

午前 制作

午後 参加者による作品の発表



「アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

6 ワークショップ「立体造形としてのバスケットリー」

講師 関島寿子(かご製作者/展覧会出品作家)
日時 11月22日(日) 23日(月) の全2日間 10:30~16:30
対象/人数 高校生以上/32名
会場 研修室、アトリエB

このワークショップでは、「かご」の制作技法を教えるのではなく、「かご」を自分で学ぶための考え方を提示し、それを体験した。

スライドレクチャーでは講師が撮影した東南アジアの樹木やさまざまな地方の風景などに重なりあって見える「かご」的なものについて話ながら、「かご」的な視点を通してものの見方が変化することについて話した。また、現代バスケットリーの作家達の作品、講師自身の作品を紹介し、制作についての話などを通して、バスケ

タリー作品がどのような考え方で制作されているか話した。たとえば、どのようなものを「かご」とよぶか、「かご」の組織と素材の性質はどのようなものかなど。スライドレクチャーの後、参加者に対して屋外から「かご」的なものを持ち帰ってくる、という課題が出された。参加者が集めてきたものの中から講師が「かご」的な部分に注目して紹介した。

制作では、梱包用紙テープを用い、さまざまなアプローチによりそれをかえることをおこなった。紙テープを10種類の形状に変容させることを課題とした。また、参加者に持参してもらった既成の「かご」の中からグループ毎にひとつを選び、その組織構造をしらべ、読み解く体験をした。その後読み解いたものを再び紙テープを使って再現することに挑戦した。

このワークショップでは「かご」的な視点への着目と既成の「かご」から学ぶことを通して、「かご」の見方や考え方、技法と素材が作品をつくること、身近なものから学ぶことなどを体験した。

11月22日

午前 スライドレクチャー

課題：屋外で「かご、織物、網目」のようなものを探してくる。

午後 持ち帰ったものを見て回りコメントする。

梱包用紙テープを10種類の状態や形にする

課題：家から既成のかごを持ってくる

11月23日

午前 持ってきたかごの組織構造を調べる

かごを再現する

午後 かごを再現する

他の人のかごを見て回る

・スライドレクチャーのテープを文字に起こした記録あり



「アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

7 ワークショップ「落ち葉でつくる秋のアルバム」

講師 浜口哲一(平塚市博物館学芸員)

日時 12月5日(土) 10:00~16:30

対象/人数 高校生以上/20名

会場 アトリエB

はじめに落ち葉の観察と採取に出かけ、イチョウ、アカメモチなどを採取した。持ち帰った葉を制作に用いるため、新聞紙に挟み水分を抜いている間にレクチャーをおこなった。

レクチャーとして、講師の撮影した風景や樹木のスライドを上映し、その葉の形態や紅葉する葉の色について話をきいた。これは身近な植物をみるときの注意を喚起するようなレクチャーだった。

制作では、用意しておいた新聞紙でプレスしたホオノキなどの押し葉と、当日採取した葉の両方を用いた。イチョウの葉から枝の配置や葉の付き方を知るゲーム、落ち葉を四角くカットしてカラーチャートをつくる、葉の拓本をとる、ホウノキの葉を顔に見立てて制作するなど4種類の内容のものをおこなった。

ワークショップとしては、樹木や葉と接する導入として、身近な植物について新たな見方や体験を深められる内容のものであった。

12月5日

午前 さまざまな落ち葉の観察と採取

スライドレクチャー

午後 イチョウの葉の付き方を学ぶ

落ち葉をカットしてカラーチャートをつくる

落ち葉の拓本

大きな葉で人の顔をつくる



「ー アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

8 レクチャー「植物の色の魅力ー江戸時代の染織品を分析するー」

講師 下山進、下山裕子（デン・マテリアル(株)色材科学研究所）

日時 12月6日（日）12日（土）の全2日間 13:00～16:50

対象／人数 高校生以上／31名

会場 研修室、アトリエB

「幻想植物園」展第2部展示の後半（11月17日～）では、江戸時代の「茶屋染め」の麻布が展示された。これは色とりどりの絹糸の刺繍により模様が描かれている布である。これまで染色布の同定は肉眼による鑑定か布片を採取した分析が主だった。しかし、この布を3次元蛍光分析法で非破壊による分析をおこなった結果、どのような天然染料が使用されていたかが同定された。

染色実習では、絹の布にキハダの黄色を染めた上に紅花から採った紅色を重ね染めすることで「緋色」を再現した。キハダから紅花という染色順序だったのは、紅色が熱に弱いことによる。もちろん低温でキハダを染めることは可能ではあるが、堅牢度などの点から、キハダを高温で先染めするのが妥当であるという結論を出した。

12月6日

午前 レクチャー

午後 キハダで布を黄色に染める

12月12日

午前 レクチャー

午後 黄色の布に紅色を重ね染めする



「ー アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

9 ワークショップクラブ「参加する美術館—— 展覧会『幻想植物園』のバックステージ」

リーダー	当館学芸員
活動日	98日／延べ975人（1999年3月末までの集計、1999年4月以降も活動は続いた）
期間	1998年6月～1999年12月
対象／人数	一般／52名
活動場所	アトリエA、B、エントランスギャラリー、展示室

展覧会「幻想植物園」の準備から開催、終了までを見て、聞いて、体験する一年以上にわたる長期プログラムである。ワークショップクラブでは、展覧会や教育普及活動が日々刻々と移り変わっていく様を目の当たりにし、それらが終了するまでのプロセスを長期にわたって体験した。また、美術館のスタッフとワークショップクラブのメンバーが展覧会の第1部「植物のかたちと色」の展示資料を制作したことから、展覧会会期中ワークショップクラブメンバーがリーダーとなっておこなうワークショップ「繊細な葉脈ー透かし葉ー」を開催した。活動内容は以下のとおりだが、平成11年度に入っても活動が続けられ、まとめとして、茜染めの染色実験やレポートの執筆、透かし葉のサンプル作り、展覧会来館者調査の入力作業が続けられている。1999年12月に『ワークショップクラブの活動ドキュメント』を発行して終了する予定である。

ワークショップクラブ活動内容一覧

- ・展覧会第1部展示資料の製作（糸巻き、かせづくり、透かし葉、茜染めの糸、ライトボックス用葉の採取）展示と撤去（2回）
- ・展覧会第3部 エアプランツの展示・撤去作業、エアプランツ、コケの水やり
- ・館内演出 クジャクヤシの水やり、「草の香」の選出
- ・印刷物 展覧会プレスリリースの製作、ポスター・ちらしの発送、配布
- ・オープニングパーティの準備と実施
- ・透かし葉ワークショップの開催（一般向け3回／小学校、中学校、高校、その他7回）
- ・展覧会関連ワークショップの準備や実施、記録の作成
- ・ニューズレターVol.1～7（A4二つ折り）の制作、配布
- ・取材の応対やラジオ番組への出演
- ・「展覧会来館者調査」（インタビュー式）11月18日、22日、28日の実施と集計
- ・「展覧会アンケート」（記述式）集計
- ・「透かし葉標本」の作成、「日本茜染色レポート」の執筆

- ☐見学会 1999年4月13日 国立科学博物館
「透かし葉にメッキの体験」「教育ボランティアによる展示解説に参加」
「教育ボランティアとの交流会」
- ☐レクチャー 1999年4月25日 平塚市美術館
「博物館・美術館の歴史：社会と文化の関わりの中で」
久保内加菜（東京工芸大学非常勤講師）

「ー アートが表現する植物の生命力ー 幻想植物園」展関連プログラム

10 応援スタッフ

期間 1998年6月～1999年3月末

「応援スタッフ」とはさまざまな形で美術館の活動をサポートする登録制の個人スタッフのことである。原則としてこれまでの教育普及活動の参加者を対象に応援スタッフを募集した。活動は一日単位で、その内容は美術館のスタッフと相談して決めていく。応援スタッフは、個人の能力や意欲を美術館の活動に発揮できるよう試みた制度である。今回はワークショップクラブと同時に同じ内容で募集したため参加者が重なり、WSCメンバーと応援スタッフの区別がつけられなかったので、ワークショップクラブの活動に吸収された形になった。

ワークショップクラブ 美術をみるために何をする？

ワークショップクラブとは、テーマをめぐって参加者が主体的に興味をひろげてゆく活動のことである。平成9年度から始まった「美術をみるために何をする？」というワークショップクラブは平成10年度にも4回活動をおこなった。このワークショップクラブは「美術をみること」の多様性を見ること、聞くこと、つくること、などの体験を通して楽しみながら深めていくものとなった。このワークショップクラブは来年度にも再編成して活動する予定である。

活動日 5月23日、6月20日、7月18日、1999年2月22日

オリジナルビデオの制作「井上三綱の世界」

企画 画：平塚市美術館

制作 作：文化工房

作品分数：22分

生誕100年を記念し、井上三綱展を開催したことによって得られた情報・データーを基礎に、井上三綱の生涯にわたる創作活動の足跡を、編年順にロケを交えた映像情報を、作品紹介、芸術観などを中心に構成した。

初心者陶芸教室

焼き物は、いろいろな行程を経てできあがるものであり、そのどれもが、熟練のいる作業である。この講座は、土練りからはじめ、手捻りにより作品を作り、釉薬をかけて、窯詰め、窯出しまでを4日間で体験するものとした。特に粘土という可塑性を持つ素材に焦点をあて、その特徴を理解するために、土練り、成形に時間をかけた。

対象 高校生以上
定員 18名（参加19名）
開催日 6月7日、6月14日、6月28日、7月5日
時間 13:00～16:30
場所 アトリエB



夏休み子供陶芸教室

小学校の低学年を対象に2講座、高学年を対象に2講座開催した。1年から3年生の低学年は、テラコッタ粘土を使い、粘土遊びの中から、その特徴をつかむことを目的とした。4年から6年生の高学年は、「うつわ」という機能を条件に手捻りで作品を作った。特に高学年の講座は、粘土という素材になれている子供たちが、焼き物としての粘土の特徴、成形の違いを学ぶことを目的とした。

対象 小学生
開催日 Aコース：7月29日 Bコース：7月31日 Cコース：8月4日 Dコース：8月6日
定員 各コース18名（参加72名）
時間 13:00～16:30
場所 アトリエB



初心者陶芸教室

この講座では、粘土の特徴を理解するために、千切ったり、丸めたり、伸ばしたりする子供の粘土遊びのようなことから始めて、土を練ることに十分な時間をかけた。作品は手捻りにより作り、削り作業、乾燥、素焼き、施釉作業、窯詰め、窯出しまでの作業を可能な限り体験した。また、電動轆轤を使いその成形法からも粘土の特徴ある可塑性を学んだ。

対象 高校生以上
定員 各コース18名（参加37名）
開催日 Aコース：2月6日、2月13日、2月20日、3月6日、3月13日
Bコース：2月6日、2月14日、2月21日、3月7日、3月14日
時間 13:00～16:30
場所 アトリエB



ワークショップオリジナルブックの制作

教育普及活動の記録として、あるいはワークショップ参加者のテキストとして制作したものをひとつのテーマでまとめ、新たな解説を加えて発行したシリーズものの小冊子。これらは館内ミュージアムショップで1冊500円で販売している。

読む子どものワークショップ⑨

「超★植物あらわる」

B 6 変形版／28頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 青木由香

読むワークショップ⑩

「日本の画」

B 6 変形版／20頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 山田りえ



保存・修復

平成10年度修復作品

No.	作者名	作品名	技法・材質	サイズ (cm)
絵画				
1	井上三綱	駆け出した牛	油彩・墨・弁柄・胡粉・キャンバス	89.2×130.7
2	井上三綱	まり遊び	油彩・墨・弁柄・胡粉・ボード	90.0×91.0
3	井上三綱	女	油彩・キャンバス	45.3×37.5
4	井上三綱	自画像	油彩・キャンバス	52.2×37.5
5	井上三綱	白馬	油彩・キャンバス	33.3×45.4
6	井上三綱	女達	油彩・水性絵具・ボード	91.0×91.0
7	二見利節	愛	油彩・板	40.5×28.0
8	四谷十三雄	抽象・赤	油彩・キャンバス	145.3×145.9
彫刻				
1	保田春彦	赤錆の幕舎	COR-TEN鋼	257×296×209
2	佐藤忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
3	舟越保武	海の顕彰碑 渚	ブロンズ	194.0×60.0×50.0
4	柳原義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
5	淀井敏夫	海	ブロンズ	90.0×230.0×340.0

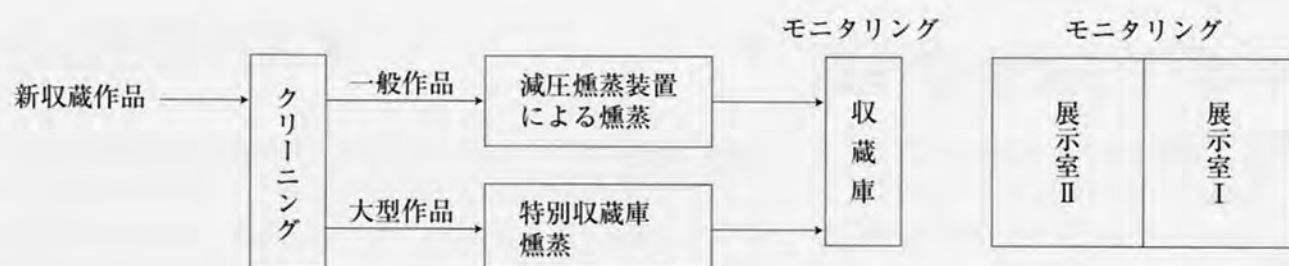
収蔵庫虫害調査（虫害モニタリング）

今年度も昨年度に引き続き収蔵作品を生物被害から守るために、新規収蔵作品については個々に減圧燻蒸装置によって、殺虫、殺菌処置を行ってきた。収蔵庫については、収蔵庫燻蒸を控え、日常的な虫害モニタリングを行うように注意をはらい展示室についても企画展示室、常設展示室のモニタリングをおこなった。しかし寄贈された大型作品は、減圧燻蒸装置（1880×930×2080mm）によって処理できないものが増え、次年度以降の作品寄贈による大型作品の増加を見計らって、特別収蔵庫における収蔵庫燻蒸をおこなう必要がでてきている。

収蔵庫1、2、特別収蔵庫の三室のモニタリングは、目視による採取、顕微鏡による同定をおこない、粘着トラップを4カ所おき1週間後に回収し調査した。調査結果によると、トラップによる昆虫の捕獲はまったくなく、収蔵庫内には虫害の進行、害虫の生息は全くないとの報告がなされた。

展示室におけるモニタリングでは、平成11年1月31日に採取した展示室2の床塵埃の中からヒメマルカツオブシムシの幼虫1死骸の一部が発見されている。また平成11年2月13日に採取した展示室1の床塵埃の中からヒメマルカツオブシムシの幼虫1死骸が採取された。採取時期が冬期であるため害虫の発見が少なかったが、年間をとおして日常的に注意をはらい、美術作品を虫害から守るための虫害監視（モニタリング）を続け、市民の文化財を後世に伝え残してゆく業務として、ますます重要性をもってきている。

実施期間	平成11年3月11日～18日
調査報告	平成11年3月31日
調査対象	収蔵庫1 552.58㎡×3.6mh 収蔵庫2 25.6㎡×3.6mh 特別収蔵庫 24.19㎡×3.6mh
調査機関	財団法人 文化財虫害研究所



収蔵庫・展示室内空気環境調査

作品の保存管理の一環として、収蔵庫内及び展示室内の空気環境改善を目的として、環境モニターを用いた評価を実施した。

各調査ポイントに環境試験紙を設置し、一昼夜(約24時間)放置し、財団法人 文化財虫害研究所より発売されている5段階識別のカラースケールで比色判定をした。調査は休館時、空調を運転した状態で行った。その結果から、収蔵庫は酸性、展示室はややアルカリ性によっていること、またその原因として室内の木材や備品、構造部のコンクリートが考えられることが判明し、対策として収蔵庫空調系統に酸性ガス除去フィルターを、展示室空調系統にアルカリガス除去フィルターをくみ込んだ。

実施期間 平成10年11月29日～30日

調査報告 平成11年12月11日

調査場所・ポイント数・結果 (1が酸性、2が中性、3～5がアルカリ性)

収蔵庫1	5ポイント	1～3
収蔵庫2	1ポイント	1
特別収蔵庫	1ポイント	1
一時保管庫	1ポイント	1
常設展示室(展示ケース内含む)	12ポイント	3
企画展示室(展示ケース内含む)	8ポイント	3～4
屋外	2ポイント	4

調査機関 進和テクノエア株式会社、日本エアー・フィルター株式会社

地震対策

額裏耐地震改修対策

当館所蔵の作品の大半は、額装された絵画であり、額装状態は様々である。

作品が収蔵庫に保存されている状態や、展示される状態などいかなる状態にあっても地震に対して安全であるため、すなわち縦揺れ、横揺れ等の衝撃波に耐えるために、額の裏側の金具と吊り下げている金具との強度バランスを適正なものに整えてゆく必要がある。本年度は、昨年度の調査にもとづき、作品が床に落下しないための額裏の改修を常設展示に出品される頻度の高い順に従って進めた。

調査改修機関 有限会社 トップアート

収蔵作品

平成10年度 収蔵作品

■寄贈作品

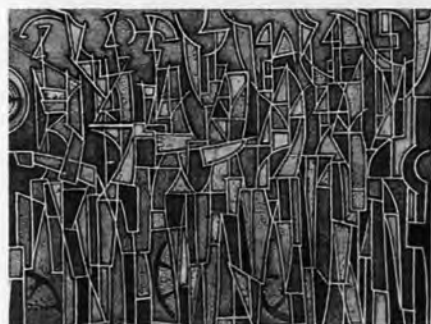
作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	寄贈者 (敬称略)
倉田 三郎	鳥海青児の寝顔	1936	クレパス・紙	18.4×23.3	平岡江美子
倉田 三郎	鳥海青児の寝顔	1936	クレパス・紙	21.4×30.0	平岡江美子
倉田 三郎	鳥海青児の寝顔	1936	クレパス・紙	24.4×32.3	平岡江美子
小谷津雅美	S嬢	1982	紙本着色	91.0×72.7	安田祥子
菅野 陽	やすで	1940頃	紙本着色	170.0×82.0	菅野裕子
菅野 陽	高架線の下	1943	紙本着色	186.0×125.0	菅野裕子
菅野 陽	虐げられる人びと	1951	油彩・キャンバス	130.2×97.0	菅野裕子
菅野 陽	かにの横ばい	1951頃	油彩・キャンバス	60.8×80.0	菅野裕子
菅野 陽	夜明け	1952	油彩・キャンバス	116.0×91.2	菅野裕子
菅野 陽	とぶ	1953	油彩・キャンバス	65.4×100.0	菅野裕子
菅野 陽	ひと	1953	油彩・キャンバス	91.2×65.5	菅野裕子
菅野 陽	やりとり	1953	油彩・キャンバス	90.2×73.0	菅野裕子
菅野 陽	三人	1953	油彩・キャンバス	65.3×100.2	菅野裕子
菅野 陽	四人	1954	油彩・キャンバス	97.2×100.4	菅野裕子
菅野 陽	四人	1954	油彩・キャンバス	80.5×100.0	菅野裕子
菅野 陽	妊婦	1954	油彩・キャンバス	80.5×43.0	菅野裕子
菅野 陽	わらう骸骨	1955	油彩・キャンバス	33.7×24.5	菅野裕子
菅野 陽	鬼	1955	油彩・キャンバス	19.2×24.6	菅野裕子
菅野 陽	女	1940頃	水彩、コンテ・紙	80.0×66.0	菅野裕子
菅野 陽	かっぱ	1954	アクワチント	19.8×13.3	菅野裕子
菅野 陽	寄らないで(a)	1954	アクワチント	11.0×10.4	菅野裕子
菅野 陽	寄らないで(b)	1954	アクワチント	11.2×10.4	菅野裕子
菅野 陽	石のかお	1954	アクワチント、サルファチント	8.4×9.7	菅野裕子
菅野 陽	おどり一丁(踊る子)	1954	エッチング、アクワチント	13.3×9.3	菅野裕子
菅野 陽	であい(A)	1955	アクワチント	17.2×13.5	菅野裕子
菅野 陽	であい(B)	1955	アクワチント	17.1×21.4	菅野裕子
菅野 陽	ひとびと(見ている)	1955	アクワチント	21.6×13.3	菅野裕子
菅野 陽	廃墟の幽霊	1955	アクワチント	13.3×11.2	菅野裕子
菅野 陽	すてられた子	1955	リフトグラウンドエッチング、アクワチント	13.5×20.5	菅野裕子
菅野 陽	ひとり	1955	リフトグラウンドエッチング、ソフトグラウンドエッチング、 アクワチント	22.7×10.4	菅野裕子
菅野 陽	あらそい	1956	アクワチント	17.0×14.1	菅野裕子
菅野 陽	わかれ	1956	エッチング、ディープエッチ、アクワチント	17.3×21.2	菅野裕子
菅野 陽	たまご	1956	エッチング、ディープエッチ、 シュガーアクワチント、アクワチント	32.0×13.0	菅野裕子
菅野 陽	ふたり	1956	エッチング、リフトグラウンドエッチング、アクワチント	56.2×32.2	菅野裕子
菅野 陽	四人	1956	エッチング、リフトグラウンドサルファチント、アクワチント	34.8×42.5	菅野裕子
菅野 陽	むれ(待つむれ)	1956	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント、アクワチント	34.8×47.2	菅野裕子
菅野 陽	れつ(A)	1956	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント、アクワチント	36.3×47.5	菅野裕子
菅野 陽	れつ(B)	1956	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント、アクワチント	35.3×46.2	菅野裕子
菅野 陽	夜のおつかい	1957	エッチング、サルファチント、アクワチント	13.3×13.3	菅野裕子
菅野 陽	密談	1957	エッチング、リフトグラウンドエッチング、 サルファチント、アクワチント、雁皮刷	35.5×22.9	菅野裕子
菅野 陽	おんな	1957	エッチング、リフトグラウンドエッチング、 サルファチント、雁皮刷	15.4×13.9	菅野裕子
菅野 陽	ささえる	1957	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント	44.0×35.3	菅野裕子
菅野 陽	ふたつの塔	1957	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント	35.8×35.8	菅野裕子
菅野 陽	おしくらまんじゅう(A)	1957	ディープエッチ、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	32.0×47.2	菅野裕子

菅野	陽	おしくらまんじゅう(B)	1957	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	16.2×35.5	菅野裕子
菅野	陽	悪童たち	1957	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	24.8×25.5	菅野裕子
菅野	陽	ふきとぶ	1957	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	32.0×53.0	菅野裕子
菅野	陽	ピエロ	1957	ビュラン、アクワチント	4.8×4.3	菅野裕子
菅野	陽	ある風景	1957	リフトグランドエッチング、アクワチント	29.6×20.6	菅野裕子
菅野	陽	おどり	1957	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	22.0×16.0	菅野裕子
菅野	陽	あるくむれ	1957	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.3×46.5	菅野裕子
菅野	陽	いじめっこ	1957	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	12.8×27.5	菅野裕子
菅野	陽	トーテム a	1958	エッチング、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	17.8×5.5	菅野裕子
菅野	陽	はねるクラウン	1958	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	40.3×32.2	菅野裕子
菅野	陽	トーテム b	1958	ディーブエッチ、サルファチント、雁皮刷	18.0×5.5	菅野裕子
菅野	陽	おごり	1958	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント	34.7×35.0	菅野裕子
菅野	陽	見える見える	1958	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.0×29.9	菅野裕子
菅野	陽	待つ	1958	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	25.3×41.0	菅野裕子
菅野	陽	おどり	1958	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.0×41.2	菅野裕子
菅野	陽	かぜ	1958	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	31.9×53.0	菅野裕子
菅野	陽	おどり	1959	エッチング、サルファチント、アクワチント	40.7×30.8	菅野裕子
菅野	陽	鬼子母	1959	エッチング、サルファチント、アクワチント	21.6×14.4	菅野裕子
菅野	陽	浮く	1959	エッチング、サルファチント、アクワチント	22.0×14.2	菅野裕子
菅野	陽	おどり(四人)	1959	エッチング、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	21.7×40.9	菅野裕子
菅野	陽	月と子供	1959	エッチング、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	35.5×23.0	菅野裕子
菅野	陽	地	1959	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、アクワチント	27.8×41.2	菅野裕子
菅野	陽	墜ちる	1959	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.4×28.3	菅野裕子
菅野	陽	おしゃべり	1959	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.4×23.7	菅野裕子
菅野	陽	牛	1959	リフトグランドエッチング、ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	12.6×14.4	菅野裕子
菅野	陽	泥人	1960	エッチング、アクワチント	26.0×44.3	菅野裕子
菅野	陽	軽業師	1960	エッチング、サルファチント、アクワチント	41.0×24.8	菅野裕子
菅野	陽	月と子供	1960	エッチング、サルファチント、アクワチント、1版2色刷	47.3×35.3	菅野裕子
菅野	陽	歩く	1960	エッチング、リフトグランドエッチング、雁皮刷	10.0×21.2	菅野裕子
菅野	陽	合唱	1960	ディーブエッチ、サルファチント	38.7×43.2	菅野裕子
菅野	陽	具足	1960	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	35.0×23.0	菅野裕子
菅野	陽	だだっこ(B)	1960	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント、雁皮刷	10.2×27.4	菅野裕子
菅野	陽	無重力	1960	リフトグランドエッチング、アクワチント、雁皮刷	39.0×45.9	菅野裕子
菅野	陽	三人	1960	リフトグランドエッチング、エッチング	10.2×17.2	菅野裕子
菅野	陽	ひろば	1960	リフトグランドエッチング、ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	35.3×50.1	菅野裕子
菅野	陽	堆積	1960	リフトグランドエッチング、雁皮刷	38.7×44.9	菅野裕子
菅野	陽	むれ	1960頃	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.1×53.0	菅野裕子
菅野	陽	王の墓	1961	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、1版3色刷	35.2×29.6	菅野裕子
菅野	陽	寄る	1961	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	25.2×44.0	菅野裕子
菅野	陽	女の顔	1961頃	エッチング、アクワチント	13.3×12.5	菅野裕子
菅野	陽	女(I)	1961頃	エッチング、シュガーアクワチント、アクワチント	15.2×10.0	菅野裕子
菅野	陽	女(II)	1961頃	エッチング、アクワチント	17.7×10.4	菅野裕子
菅野	陽	月とうさぎ	1962	エッチング	5.2×5.0	菅野裕子
菅野	陽	綱	1962	エッチング、リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	35.0×35.0	菅野裕子

菅野	陽	ダフネ	1962	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	38.1×28.8	菅野裕子
菅野	陽	ながれ	1962	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	35.3×24.2	菅野裕子
菅野	陽	プロメテ	1962	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	44.2×39.9	菅野裕子
菅野	陽	生	1962	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント、雁皮刷	36.1×41.5	菅野裕子
菅野	陽	累層	1962	リフトグランドエッチング、アクワチント	39.8×44.5	菅野裕子
菅野	陽	門	1962	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	44.1×39.8	菅野裕子
菅野	陽	午前の歌(詩 吉村博次)	1963	---	37.5×28.7	菅野裕子
菅野	陽	衝激	1963	エッチング、ディーブエッチ、リフトグランドエッチング	35.5×53.5	菅野裕子
菅野	陽	倒立道化	1963	エッチング、リフトグランドエッチング、 アクワチント、1版3色・雁皮刷	6.3×5.7	菅野裕子
菅野	陽	ミノタウロスとテーセウス	1963	ディーブエッチ、シュガーアクワチント、 サルファチント、アクワチント、	59.0×41.3	菅野裕子
菅野	陽	風(試作)	1963	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング	21.0×34.4	菅野裕子
菅野	陽	ふたご座	1963	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント	47.3×41.2	菅野裕子
菅野	陽	ミノタウロスとテーセウス	1963	リフトグランドエッチング	58.5×41.0	菅野裕子
菅野	陽	輪	1963	リフトグランドエッチング、アクワチント、1版3色・雁皮刷	35.5×36.0	菅野裕子
菅野	陽	ミノタウロスとテーセウス	1963	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	38.2×58.8	菅野裕子
菅野	陽	射手と冠	1963	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	46.6×41.0	菅野裕子
菅野	陽	とり	1963頃	シュガーアクワチント、雁皮刷	24.9×41.8	菅野裕子
菅野	陽	仮面舞踏	1963頃	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、サルファチント	5.5×6.2	菅野裕子
菅野	陽	とり	1963頃	ドライポイント	5.0×5.5	菅野裕子
菅野	陽	とまれ	1963頃	リフトグランドエッチング	43.5×38.2	菅野裕子
菅野	陽	立つ女	1963頃	リフトグランドエッチング、アクワチント	28.8×12.7	菅野裕子
菅野	陽	トルソ(黄)	1964	エッチング、サルファチント、2版2色刷	38.0×29.7	菅野裕子
菅野	陽	まり(試作)	1964	エッチング、シュガーアクワチント、 サルファチント、2版2色刷	42.0×42.0	菅野裕子
菅野	陽	まり	1964	エッチング、シュガーアクワチント、 サルファチント、アクワチント、9版4色刷	42.1×41.0	菅野裕子
菅野	陽	行道	1964	ディーブエッチ、アクワチント	22.0×13.0	菅野裕子
菅野	陽	かたち	1964	ディーブエッチ、アクワチント、1版2色刷	15.8×17.5	菅野裕子
菅野	陽	四つ目	1964	ディーブエッチ、サルファチント、	17.7×18.0	菅野裕子
菅野	陽	トルソW	1964	ディーブエッチ、サルファチント、2版2色刷	50.5×36.4	菅野裕子
菅野	陽	トルソ(飛ぶ)	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	42.3×27.5	菅野裕子
菅野	陽	トルソD	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	44.2×46.0	菅野裕子
菅野	陽	トルソM	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	41.0×29.6	菅野裕子
菅野	陽	トルソW	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	41.0×29.0	菅野裕子
菅野	陽	組まれた半身	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	41.5×34.0	菅野裕子
菅野	陽	背景ある人	1964	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	41.5×29.5	菅野裕子
菅野	陽	トルソ背	1964	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント、	42.5×25.4	菅野裕子
菅野	陽	伴奏	1964	ドライポイント、リフトグランドエッチング、 シュガーアクワチント、アクワチント	42.2×56.4	菅野裕子
菅野	陽	トルソM	1964	メタルグラフィック、1版2色刷	50.7×35.5	菅野裕子
菅野	陽	翼ある人	1964	メタルグラフィック、2版3色刷	35.5×41.5	菅野裕子
菅野	陽	こども	1964頃	アクワチント、雁皮刷	11.6×8.5	菅野裕子
菅野	陽	行道	1964頃	ディーブエッチ、アクワチント	4.7×4.1	菅野裕子
菅野	陽	紋	1964頃	ディーブエッチ、アクワチント	4.8×4.3	菅野裕子
菅野	陽	組まれた半身	1964頃	ディーブエッチ、サルファチント	41.4×29.1	菅野裕子
菅野	陽	男と犬	1964頃	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング	44.4×15.8	菅野裕子
菅野	陽	トルソ(青)	1964頃	メタルグラフィック、1版2色刷	22.7×11.6	菅野裕子
菅野	陽	翼	1964頃	リフトグランドエッチング、ソフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	29.3×41.2	菅野裕子
菅野	陽	積む	1965頃	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	30.0×42.0	菅野裕子

菅野	陽	てれる	1965頃	ドライポイント	42.0×29.8	菅野裕子
菅野	陽	二つのトルソ	1965頃	メタルグラフィック、リフトグランドエッチング、 サルファチント、2版2色刷	41.0×46.4	菅野裕子
菅野	陽	古墳より(壁)	1967	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	29.9×41.5	菅野裕子
菅野	陽	古墳より(輪)	1967	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	41.0×29.4	菅野裕子
菅野	陽	麻仁	1967	ドライポイント	12.9×11.5	菅野裕子
菅野	陽	麻仁	1967	ビュラン	12.4×8.0	菅野裕子
菅野	陽	男(背面)	1968	エッチング、ディーブエッチ、 リフトグランドエッチング、凸版刷	19.3×9.6	菅野裕子
菅野	陽	すわる	1968	ドライポイント、シュガーアクワチント	29.7×41.2	菅野裕子
菅野	陽	群像	1968	ドライポイント、シュガーアクワチント	29.8×41.4	菅野裕子
菅野	陽	追われる	1968	ドライポイント、シュガーアクワチント	29.9×41.5	菅野裕子
菅野	陽	並ぶこどもら	1968	ドライポイント、シュガーアクワチント	29.8×42.0	菅野裕子
菅野	陽	逆さ吊り	1968	ドライポイント、リフトグランドエッチング	30.0×41.8	菅野裕子
菅野	陽	並ぶこどもら	1968	ドライポイント、リフトグランドエッチング	29.0×41.4	菅野裕子
菅野	陽	おどるふたり	1969	サルファチント	15.0×11.9	菅野裕子
菅野	陽	トレーニング	1969	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	24.7×17.7	菅野裕子
菅野	陽	むれ(Ⅰ)	1970	ディーブエッチ、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	29.0×41.7	菅野裕子
菅野	陽	むれ(Ⅱ)	1970	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	29.5×41.6	菅野裕子
菅野	陽	すわるひとⅠ	1971	ドライポイント、	41.8×29.7	菅野裕子
菅野	陽	すわるひとⅡ	1971	ドライポイント、	41.8×29.7	菅野裕子
菅野	陽	十二支一動物	1974	【菅野陽銅版画第1集】	24.4×19.6	菅野裕子
菅野	陽	坐る人形たち	1974	エッチング、サルファチント、アクワチント	35.8×29.5	菅野裕子
菅野	陽	箱の人形	1974	エッチング、ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	24.3×36.0	菅野裕子
菅野	陽	人形胸像	1974	エッチング、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	18.5×12.8	菅野裕子
菅野	陽	人形三体	1974	エッチング、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	35.7×25.8	菅野裕子
菅野	陽	風	1974頃	エッチング、サルファチント、アクワチント	50.9×36.4	菅野裕子
菅野	陽	ギリシャ神話一十話	1975	【菅野陽銅版画第2集】	24.2×19.5	菅野裕子
菅野	陽	黄道十二宮	1975	【菅野陽銅版画第3集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	人形たち一十種	1976	【菅野陽銅版画第5集】	24.3×19.4	菅野裕子
菅野	陽	夜	1976	エッチング、リフトグランドエッチング、 サルファチント、アクワチント	50.0×35.7	菅野裕子
菅野	陽	仮面一十種	1977	【菅野陽銅版画第6集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	画の中の子供	1977	【菅野陽銅版画第7集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	天使と飛天と	1978	【菅野陽銅版画第8集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	日本の神話一十話	1978	【菅野陽銅版画第9集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	こども一十態	1979	【菅野陽銅版画第10集】	24.3×19.5	菅野裕子
菅野	陽	動物園の動物たち	1979	【菅野陽銅版画集】	27.2×22.7	菅野裕子
菅野	陽	ギリシャ辺々	1980	【菅野陽銅版画集】	27.2×22.7	菅野裕子
菅野	陽	人形	1980	【菅野陽銅版画集】	23.3×18.8	菅野裕子
菅野	陽	動く人形たち	1980	【菅野陽銅版画集】	27.2×22.8	菅野裕子
菅野	陽	ギリシャ神話一Ⅱ	1981	【菅野陽銅版画集】	27.1×22.7	菅野裕子
菅野	陽	古墳より(舟と人)	1982	リフトグランドエッチング、サルファチント、アクワチント	41.4×29.2	菅野裕子
菅野	陽	フレーム	1983	エッチング、シュガーアクワチント	35.5×25.3	菅野裕子
菅野	陽	古墳より	1985	【菅野陽銅版画集】	23.3×19.0	菅野裕子
菅野	陽	三角文(古墳より)	1986	エッチング、アクワチント	17.7×23.5	菅野裕子
菅野	陽	日と人と動物たちと (古墳より)	1986	ディーブエッチ、サルファチント、アクワチント	17.6×23.4	菅野裕子
菅野	陽	自画像	1987	エッチング、リフトグランドエッチング、アクワチント、雁皮刷	35.2×26.5	菅野裕子
菅野	陽	妻	1988	エッチング、リフトグランドエッチング、アクワチント	36.0×29.8	菅野裕子
菅野	陽	ひかり	1980年代	エッチング、アクワチント	16.7×10.4	菅野裕子
菅野	陽	古墳より	1991	エッチング、アクワチント	23.6×17.9	菅野裕子

菅野	陽	古墳彩画より(群像と渦文)	1991	リフトグラウンドエッチング、アクワチント	23.5×17.9	菅野裕子
菅野	陽	おんな	1993	エッチング、アクワチント	36.0×23.5	菅野裕子
勝呂	忠	イーL	1962	油彩、樹脂・キャンバス	69.7×50.0	勝呂忠
勝呂	忠	イーM	1962	油彩、樹脂・キャンバス	69.7×50.0	勝呂忠
勝呂	忠	イーP	1962	油彩、樹脂・キャンバス	69.0×99.0	勝呂忠
勝呂	忠	パンドラ	1953	油彩・キャンバス	91.1×116.7	勝呂忠
勝呂	忠	古代幻想(3点組①)	1967	油彩・キャンバス	237.6×182.1	勝呂忠
勝呂	忠	古代幻想(3点組②)	1967	油彩・キャンバス	227.0×146.0	勝呂忠
勝呂	忠	古代幻想(3点組③)	1967	油彩・キャンバス	237.6×182.1	勝呂忠
勝呂	忠	太陽と人	1955	油彩・キャンバス	91.0×73.0	勝呂忠
勝呂	忠	風の音	1994	油彩・キャンバス	130.4×162.1	勝呂忠
鳥海	青児	アルゼリー港	1936頃	クレパス・紙	19.1×28.1	平岡江美子
鳥海	青児	アルゼリー港	1936頃	マジックインク、墨・紙	19.2×28.1	平岡江美子
鳥海	青児	風景	1948頃	水彩、インク・紙	20.8×35.3	平岡江美子
鳥海	青児	風景	1948頃	水彩、インク・紙	20.8×35.6	平岡江美子
中村	光哉	過ぎし日(2)	1996	染色	168.0×168.0	中村光哉
二見	利節	街	1960年代	油彩(混合技法)	53.0×46.0	大貫達雄
二見	利節	無題	1961	油彩(混合技法)	27.0×19.5	大貫達雄



菅野 陽《れつ(B)》1956年



菅野 陽《ひろば》1960年



菅野 陽《寄る》1961年



勝呂 忠《イーL》1962年



鳥海青児《風景》1948年頃

統計

平成10年度 観覧者数

月	企画展	常設展	観覧者数計
4	312	622	934
5	3,310	2,407	5,717
6	1,740	1,935	3,675
7	3,219	2,926	6,145
8	7,281	5,666	12,947
9	0	772	772
10	1,931	2,068	3,999
11	4,772	3,583	8,355
12	4,330	3,543	7,873
1	5,359	2,881	8,240
2	7,275	4,217	11,492
3	0	752	752
合計	39,529	31,372	70,901
前年度末	437,564	386,166	823,730
館以来	477,093	417,538	894,631

平成10年度 施設利用状況

月	展覧会 開 催 日 数	視 察 ・ 施 設 見 学						会議等 件 数
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	2 6	2	2 2	0	0	2	2 2	3
5	2 8	1	2 5	2	4 1	3	6 6	9
6	2 3	1	2 6	2	5 5	3	8 1	6
7	2 7	5	1 7 0	7	1 5 5	1 2	3 2 5	8
8	2 6	2	4 3	0	0	2	4 3	7
9	2 6	0	0	0	0	0	0	3
10	2 6	2	6 1	6	2 7 3	8	3 3 4	3
11	2 5	7	1 5 1	2	1 0	9	1 6 1	6
12	2 4	2	2 6	2	6 4	4	9 0	2
1	2 4	2	6 0	1	1 2	3	7 2	1
2	2 2	4	9 4	3	1 0 1	7	1 9 5	0
3	2 6	2	2 5	1	5	3	3 0	0
合 計	3 0 3	3 0	7 0 3	2 6	7 1 6	5 6	1 4 1 9	4 8

平成10年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市 内	12	511	38	11	303	30
	市 外	2	221	7	1	121	5
中学校	市 内	16	289	47	15	93	40
	市 外	0	0	0	0	0	0
高 等 学 校		3	25	5	5	51	8
合 計		33	1046	97	32	568	83

平成10年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展 覧 会 開催日数	利 用 団体数	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	23	6	4,336	湘南芸術協会展、98和田造形作品展 第13回湘南市民美術展、横浜ゴム写真部展 湘美会、ポーセリンアート展
5	27	5	3,732	第10回九龍社書道展、八人とその仲間展 陶芸サロン遊び会サロン展、片桐聖子個展 寂静会「想展」
6	14	3	3,765	第29回平塚書道協会展、平塚市医師会文化展 卒寿を生きた江戸女の手仕事展、平塚市展
7	24	4	3,852	F 6 号アマチュア絵画コンクール 第16回湘南写真家協会写真展 神奈川県筆友書道連盟公募展、第7回ヴィヴラヴィ展
8	25	5	4,712	'98水美日彩会展、パレットの会展 二見利節を偲ぶ会展、第14回入木展 青い鳥アートスクール・アルヴィヴァン湘南美術展
9	26	6	4,045	'98現代琳派圓心流日本画大展 第5回全国七夕競書大会展、平塚美術家協会展 第4回茂田綾子水墨画展、古屋雅文・静江二人展 第34回JRP写真展
10	25	5	4,373	楽窯会作品展、すさ美会展、平塚市文化祭前期 中地区中学校展、平塚市文化祭後期
11	25	6	11,850	名実実展、フラワーアレンジメント展 平塚市立幼・小図工作品展 オリンパスカメラクラブ湘南支部作品展 和の会油絵2人展、MOA美術館児童作品展
12	22	5	4,005	第4回旭彩会水彩展、樟の会作品展 画材&ギャラリーオクトアトリエ展 第10回日本画なでしこ会展 流行逢都繪・河口邦夫絵展
1	16	3	3,682	第7回ぐうちよきばあ展 絵画教室アトリエ・バンビ“F”30周年展 第23回平塚市保育園児絵画展
2	21	5	5,491	なかよし作品展、ひまわりの会展 木彫福祉会館楽彫会とその仲間たち展 その絵の会作品発表会、陶芸クラブ「有雅陶展」
3	25	6	3,526	サークル絵展、静邸六蒲人の書・陶展 第8回善陶会作品展、北斗陶館炎の世界展 湘南作家展、書のなかま展
計	273	59	57,369	



平成10年度までの 市民アートギャラリー入場者の推移

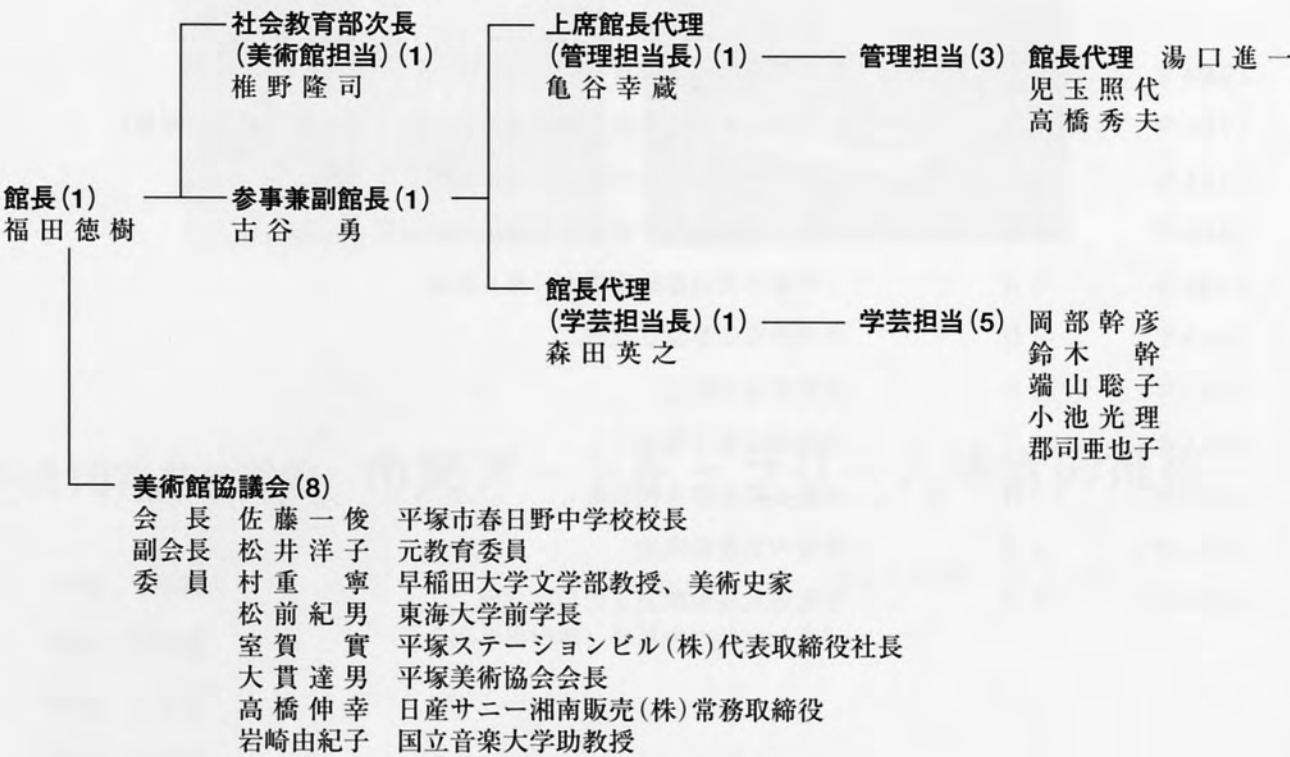
平成 2 年度	(1) 件	3,265 人 (市民美術展H. 3. 3.27)
平成 3 年度	41 件	61,152 人
平成 4 年度	50 件	71,107 人
平成 5 年度	52 件	60,426 人
平成 6 年度	56 件	61,948 人
平成 7 年度	61 件	62,632 人
平成 8 年度	62 件	61,412 人
平成 9 年度	58 件	61,301 人
平成 10 年度	59 件	57,369 人

総 計	439 件	500,612 人
-----	-------	-----------

沿革

1984年	5月	美術館建設研究委員会（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置（1986年まで8回開催）
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設起工
1990年	10月	美術館本体工事竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例公布
1991年	3月	平塚市美術館開館
1996年	10月	平塚市美術館開館5周年記念展 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」

組織・運営



協議会 平成10年 7 月15日(水) 当館研修室

- 役員選出について
- 美術館事業について

視 察 平成11年 2 月 9 日(火) 埼玉県立近代美術館

平成10年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

Tel.0463 (35) 2111

印刷 (株) グラフ

Tel.0463-54-8000

平塚市四之宮1005

平成11年4月1日発行